

令和5年度決算主要施策の成果

(単位:千円)

事業名	事業目的	決算額	事業の成果	備考
2110 情報政策推進費	○スマートシティの実現に向け、情報通信技術(ICT)の適切な管理や行政デジタル・トランスフォーメーション(DX)を進め、市民サービスの向上及び事務の効率化を図る。	4,255	<p>○RPA技術を活用した事務作業の自動化により、事務の効率化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器保守点検委託料 1,320 ・ライセンス使用料 1,320 <p>[利用実績] 医療福祉(国保年金課)・介護事務(介護長寿課)の2課2業務で稼働 システム処理における削減効果:673時間(85%減)</p> <p>○AI-OCR技術を活用し、手書き申請書等の文字情報をスキャナーで取込み、システム利用ができるデジタルデータに変換することで、職員の入力作業の軽減を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライセンス使用料 1,320 <p>[利用実績] 介護事務(介護長寿課)、保育所等入所申込(幼児教育課)、訪問支援記録等(社会教育課)の3課8業務で稼働 入力作業の削減効果:222時間(62%減)</p> <p>○生成AIを業務で活用するため、ワーキングチームによるChatGPTの実証実験を行った。実証実験の結果として、庁内で業務効率向上のため幅広い活用が見込めることとなったため、次年度以降の正式導入に向けたガイドライン(運用方針)を策定するなど、全庁活用への準備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライセンス使用料 295 <p>[利用実績] ChatGPT利活用検証ワーキングチーム(27名)で検証 作業削減効果:141時間(6月～11月の測定)</p>	<p>○RPA: Robotic Process Automationの略。パソコン上で動作するソフトウェアロボットを導入し、システム上の事務作業プロセスを自動化するもの。</p> <p>○AI: Artificial Intelligenceの略。人工知能</p> <p>○OCR: Optical Character Recognition(Reader)の略。手書きや印刷された文字をスキャナーなどで読みとり、文字データに変換する技術</p> <p>○生成AI: 人間からの指示により文章や画像など新たなものを生成するAI</p>
2115 企画調整事務経費	○各種申請手続きの住民利便性向上や事務処理の効率化のため、オンライン申請の推進を図る。	2,245	<p>○オンライン申請システム「LoGoフォーム」「びったりサービス」「いばらき電子申請・届出サービス」による申請手続きの電子化を進め、市民の利便性向上及び事務処理の効率化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア使用料(LoGoフォーム) 2,244 ・手数料(クレジット決済) 1 <p>[利用実績] 申し込みのあった手続数:192手続(令和6年3月31日時点) オンライン申請数:22,920件 申請処理に係る事務削減効果:1,853時間 来庁・帰宅まで含む削減効果:15,693時間</p>	